

令和2年度 第1回市政モニターアンケート

「市民協働によるまちづくり」の集計結果からの考察

市民活動を始めるきっかけは、活動している人からの「呼びかけ」が効果的

活動を始めたきっかけは、自治会・PTA・子ども会の呼びかけが特に多く、その他にも、家族や友人、ボランティアや市民活動団体等からの「呼びかけ」がきっかけで始める人が多くいることがわかりました。活動している人から活動していない人に話してもらえるきっかけづくりを考えたいと思います。

市民活動を活発にするためには、どのような活動をしているかを知ってもらうことや、気軽に参加できる機会をつくることが大切

市民活動が盛んになるために必要なこととして、多くの人が、市民活動に対しての情報発信と参加しやすい仕組みづくりを挙げていました。特に、どのような活動があるのかわからないといった意見が多く、情報発信の充実と興味を持っている人が気軽に参加する機会をつくるのが大切だと感じました。

市民協働の効果、必要性を伝え、市民と行政がお互いを知るための交流の場が大切

市民協働に対する認知度が低く、まずは知ってもらうことが大切だとわかりました。

まちづくりを市民協働で進めることが「望ましい」といった意見が多くある一方で、「行政主導で進めることが望ましい」と「わからない」という意見も多く、市民協働の効果や必要性等を伝えていく必要があると感じました。

また、情報交換や市民と行政が交流してお互いの考えを知るための交流の機会を作ることの検討も必要であると考えます。

市民が地域や市政に関心を持てることが、市民協働には必要 実際に市民とともに取り組んだ活動内容や、意見が反映された結果など、協働に関する情報の見える化が次の行動や参加につながる

活動に無関心な人には社会や市政への関心を持つように市民の意識改革が必要で、関心を持った人が次の行動に移るためには、市民の意見や活動が反映された結果など協働に関する情報公開や見える化が、市民の積極的な参加につながっていく1つの取り組みと考えます。